



【校訓】 立志 ・ 協働 ・ 生命

南 風 ~ MINAMI KAZE ~

高知市立南海中学校 学校便り No. 22

令和4年7月8日(金) 通算 2118号

高知市長浜 5235 Tel.088-842-3291

対話によって身につく生きる力

南海中学校のめざす授業と生徒につけたい力

地 空

jikuu

報道部

新田 祐也

市南海中3年生。公民の授業で「マンションでの紛争を解決する方法を考える」という課題に取り組んでいる。教諭は「生徒が活発に話し合えるように仕

6階建て中古マンションにエレベーターを新設することになった。費用は1200万円。どう割り振ればいいのか。使用しない階住民は「払う必要がない」。一方で上層階の住民は「エレベーター設置でマンションの資産価値は上がる。全員で分担を」と主張する。さ、どうしたものか。

対話する生徒

ある高校の進路担当教師は「用語の理解や知識の定着を見るのが旧来の評価軸。この大事さは変わらないが、主体性とい

向ける。私がしゃべり過ぎると失敗です。アクティブ・ラーニングと呼ばれる手法で、課題の最後には最適な負担割合を生徒が出し合う予定だ。同校が対話重視の授業を取り入れたのは、学習指導要領が改定された昨年度から。改定で生徒評価の際に「思考・判断・表現力」と「主体的に学習に取り組む態度」に重きを置く内容になったのが、後押しとなった。「総合的な学習」などの話題を生んできた。多くの仕事が人工知能に置き換わるとされる時代。必要とされる学びの模索が続いている。

南海中では、覚えたり、計算したりする力に加えて、深く考えたり、説明したり、書き表したりする力の育成を重視しています。知識や技能だけでは、これからのAI主体の社会で、その力を発揮していくことは難しいとされているからです。



また、人と関わり、認めあい、支えあう中で、ともに生きることの大切を学んでほしいと考えています。

左の社会(公民)の授業では、最初は「各階で200万円ずつ均等に分ける」、「上の階ほど負担額を増やす」といった意見が出ていましたが、先生から世帯人数や年齢構成の資料が出されると、迷いながらも議論はさらに活発化。まるで自分のことのように話し合いを深めていました。

この単元では、費用の分担方法を知るのが目的ではありません。生徒どうしが資料や状況から真剣に考え対話する中で、自然に平等や公平・公正、民主主義とは何かを学んでいきます。



← 令和4年7月5日付高知新聞コラム欄

3年生、笑顔はじける最高の修学旅行

あいにくの雨模様でしたが、その分暑すぎず、体調を崩す生徒も少なく、予定通りの日程で旅行を終えました。生徒のあふれる笑顔に、修学旅行に行くことができた喜びと充実感がよく表れています。

第1日：7月4日(月)

出発式(学校)



紫雲丸追悼慰霊集会(高松港)



北淡震災記念公園(淡路島)



大阪海遊館(大阪市港区)



ホテルで夕食



第2日：7月5日(火)

USJ(大阪市此花区)



ホテルで夕食



第3日：7月6日(水)

伏見稲荷(京都市伏見区)



清水寺(京都市東山区)



解散式(吉野川SA)

